

開村100周年記念特集①

和寒村の誕生 明治・大正時代

開村への道のり



明治末期から大正の初め、和寒地区4,950人の独立への想いが詰まった分村請願書

住人とは風習も違い、いつも意見が合わない。和寒にとって不公平な決定も多い。これを改善するには、分村するより他に良い方法は無い。」
(一部抜粋・意識) と書かれてあり、和寒村新設のために、多くの人たちが熱心な運動を続けた結果、大正3年の剣淵村会(今の議会にあたる)で、分村が妥当として満場一致の議決をみました。
大正4年3月12日、道庁から正式な告示を受け、大きな喜びの中、ついに念願の和寒村が誕生することになったのです。

開村の喜び

村を挙げて祝賀会

大正4年3月31日、開村を翌日に控え、まち中が熱気に包まれる中、村役場の開庁に向けて宿直にあたった書記 鈴木董賢が書き残した役場日誌から、当時の様子がうかがえます。

「小職は使丁と共に宿直を為さんとするも、宿直用の寝具未着の結果、止むを得ず、庁舎の前なる菊地伊七方に往き之を借受け、小職は武田三郎と共に宿直を勤務せり。

鶏鳴一声、四月一日を迎へんか、健全無病なる本村は、母胎を離れて清き且つ新鮮なる空気の中に呱呱の声を挙げんとする前夜、たまたま任を新村の事に受け面かも開庁の準備に指を染めて責任ある当直の勤務に服す。誠に光栄且つ励快とする所なり。思ふて茲に至れば、感激措く能はず、敢てこの日誌を草す。」
(原文のまま。一部抜粋)

4月1日付で、初代村長 関根源

三郎が北海道より任命され、また鈴木氏を含む3名の書記と2名の書記補で和寒村が始動しました。

そして、4月18日には村をあげての分村祝賀会が盛大に催され、昼は旗行列、夜は提灯行列や観劇会の開催など、空前の賑わいを見せました。



初代村長 関根源三郎 (T4. 4. 1~T5. 4. 24)

明治42年6月、剣淵本村への不満の高まりを受けて、当時の有力者たちが集まり、分村期成会(和寒地域を村として独立させるための運動をおこなう組織)が結成されました。期成会が上川支庁や道庁に提出した請願書には、「本村は元屯田兵によつて開村した村で、私たち和寒の



大正5年11月25日に完成した役場庁舎は、現在の中央児童公園(西町)のあたりに建てられた。



多くの来賓、村民が集まり、快晴の中、盛大に祝賀会が開催された。



3代村長 山口喜敬
(T7. 11. 30~T9. 3. 31)



4代村長 金田虎吉
(T9. 4. 1~T9. 11. 16)



2代村長 石崎喜代松
(T5. 6. 22~T7. 11. 30)

開村当時(大正4年度)の村勢

▽戸数及び人口
戸数 1,332戸
人口 7,731人
(男4,407人、女3,324人)

▽学校
和寒尋常高等小学校(市街)
和寒第2尋常小学校(中和)
和寒第3尋常小学校(三和)
辺乙部教育所(西和)
児童 尋常科 男513人
女486人 計998人
高等科 男40人 女14人 計54人

開村から10年 不況を乗り越え

開村後、青えんどうやでん粉、除虫菊など農業を中心に順調に進展してきた和寒村でしたが、大正8年に第1次世界大戦が終結し、戦後の反動恐慌が起こり物価が大暴落。一転して不況に追い込まれました。

こうした中、大正10年に着任した村長 山口喜作は、在職した4年半で、土功組合を創立して中和・西和に貯水池とかんがい溝を作り、納税組合の設立や青年婦人団体の設立育成、塩狩駅の開設や泥炭地の改良など、多方面で活躍し、村政に大きく貢献しました。

昭和初期の塩狩温泉と駅プラットホームの様子(名寄方面からSLが走ってくるころ)



置村10周年記念式と土功組合第2区(西和)貯水池通水式を合同で開催。緑色のアーチで村民を迎えた会場の和寒尋常高等小学校(和寒小学校の前身)は、美しい装飾で彩られ、約500人が参列して村の前途を祝福した。

大正14年、そうした苦難を乗り越え、10周年を迎えた記念式典での山口村長の式辞から、当時の想いを推し量ることが出来ます。

「惟フニ本村今日ノ発達ハ先住者各氏ガ鬱蒼タル森林ヲ開伐シ、昼尚ホ猛熊出沒シ狐狸徘徊セル中ニ寒氣ト戦ヒ、不便困苦ニ堪ヘテ開拓ニ従事シ、村民協力一致シテ勤勉努力セルハ勿論ナリト雖モ、本村ガ独立シテ自治体ヲ構成シタル事実ニ負フ所多キコトハ否ムベカラザル事実ニシテ、此ノ十周年記念式ハ本村ニトリテハ忘ルベカラザル記念トス。」
(原文のまま。一部抜粋)

5代村長 山口喜作
(T10. 3. 31~T14. 10. 16)



開村10年後(大正14年度)の村勢

▽戸数及び人口
戸数 1,550戸
人口 8,856人
(男4,668人、女4,188人)

▽学校
尋常高等小学校2(和寒、中和)
尋常小学校5
(三和、西和、大成、東和、朝日)
特別教授場1(覚礼)←現在の福原
児童 尋常科 男756人
女738人 計1,494人
高等科 男111人
女48人 計159人

分村・開村・置村

大正14年の式典は「置村」10周年記念式とされ、その時に設けられた記念アーチには祝「開村」10周年、さらに山口村長の式辞の中には「独立」10周年とあります。

住民の熱い想いから始まった「分村」運動から、大正4年4月1日に村政施行となった和寒村は、当時から様々にその起点の表現がされていましたが、第2次大戦以後は「開村」に統一されていきました。